まちづくり懇談会議事録【公開用】

日　時：令和元年 10 月 25 日（金）10 時 00 分～11 時 40 分
場　所：阿野呂公民館
出席者：5 人

1. 開　　会
2. 町長挨拶
　※配布資料確認および日程説明
3. 今年度のまちの動き（資料①）
　※質疑応答
4. これからのまちづくり（資料②）
5. 懇談
6. その他
　(1)出前型政策・施策説明会「栗山町のまちづくり」について（資料③）
　※質疑応答
7. 閉会

≪質疑応答≫
【栗山赤十字病院の改築問題・北海道介護福祉学校の存続・栗山高校の存続について】
町民：
　日赤病院については、町内に病院がないと困ると思う。専門医がおらず厳しいところもあると思うが、病院がないと困るので、何か良い方法があればと思う。
　介護福祉学校については、介護士の待遇が悪いことなどが原因となり、倦厭される職種になってしまい、単独での経営は難しい。少子高齢化社会で介護人材は必要であり、介護福祉学校の維持は国として対応してほしい。
　栗山高校の存続について、約 10 年前、私が角田小学校の PTA 会長時代に、栗山高校が 4 間口から 3 間口に減少する問題があった。当時、三笠高校が食に特化して生徒を集め始めていた状況があり、栗山高校も魅力がないと良くないのではないかと意見を出したことがある。しかし当時その意見は流されてしまい、結果的にどんどん生徒が集まらなくなっていって、個人的には今更感がある。今更 2 間口維持の要請をしたところで、学校に魅力がないと学生は集まらない。現在、支援制度として費用補助を行っているが、助かるのは親であり、高校に魅力がなければ子どもにとっては何の意味もない。何かもっと具体的なことを検討していただかないと、栗山高校はいらなくなってしまうのではないか。無くしたくはないが、そうなっても仕方ないのではないかと思う。
　栗山町スキー場の関係については仕方がない。近隣で長沼町、夕張市、岩見沢市にスキー場があるので、バスなど使ってつなげていただければ良いのではないか。

町長：
　日赤病院については、建物の建て替えが必要であり、現状としてこのままにしておけ

ない。最も効率的で町の財政に負担がかからない方法としては、広域で連携して病院を作ることだと思うが、それぞれの町が病院を維持しようと努力している中、栗山町の病院を拠点化しようとすることは難しい。しかし、どこの町も同じような問題を抱えているため、この機会に議論はしていきたい。まちづくり懇談会の中でもさまざまな意見があり、効率を考えると広域での連携が必要で、栗山町に病院がなくても仕方がないのではないか、という方もいれば、町に病院はなくてはならないものであり、この機会にしっかり栗山単独で、これからの人口減少や受療動向も見据えて、病床数の縮小など、町の医療水準を適切に保っていく方法を考える必要があるという意見もある。栗山赤十字病院改築等検討委員会の中でしっかり方向付けしていきたい。この問題は平成 22 年から 10 年近く議論しているが、費用面、他の町との問題など、結論を出せない状況が続いている。しかし、耐震の問題があり、これ以上は先延ばしにできないため、本年度中に方向付けをしていきたい。もし建て替えると決まれば、診療科目、診療時間、病床数など、さまざまな議論が必要であり、7、8 年後になってしまう。そこまで建物がもつかどうかという問題もあり、しっかり方向付けをして議論していく必要がある。

介護福祉学校については、国に要望しているが、国は介護人材の不足については外国人の登用、有資格者やシルバー人材の掘り起こしを考えている。町としては養成校でしっかり技術と知識をもった介護福祉士を養成していかなかなければならず、経営支援をしてほしいと要請しているが、一つの制度を変えることの難しさに直面している。この 5 年間で介護学校は 2 割が減少していて、歯止めをかけるためにも財政支援を通した誘導が必要だと訴えているが聞き入れてもらえない状況。継続してしっかり要請していきたい。

栗山高校については、いただいたご意見のとおりいくら 2 間口維持を要請しても、生徒が集まらず結果を出せなければ間口は減っていき、廃校につながっていく。結果を出していかなければならない。そのためには栗山高校を魅力ある学校にしていかなければならず、要請活動と合わせて委員会で議論していく。栗山独自のふるさと教育と連携するなど、魅力づくりに努めていきたい。

福祉総括：

現在、日赤病院には 11 の診療科があり、より高度な医療を受けるために、2 次医療圏の岩見沢市や 3 次医療圏の札幌市へ行っているという現状。交通手段の問題もあり、町内の多くの高齢者が日赤病院に通院している。日赤病院の問題については、耐震基準を満たしていないことから、できるだけ早く取り組まなければならない。本年度中に栗山赤十字病院改築等検討委員会において方向性を定めた後、皆さんのご意見をいただきながら進めていきたい。

教育次長

栗山高校について、平成 22 年に 4 間口が 3 間口に減少し栗山高等学校の魅力づくり委員会を設立して間口存続について活動を行っていた。しかし 4 間口に戻ることはなく、3 間口で推移した。その後、さらに生徒数が減少し、3 年後に 2 間口に減少。その際にも要請活動を行ったが、3 間口に戻ることはなかった。その後は特に対策をすることなく、数年間動きがない状況が続いた。昨年、町長が公約の一つとして栗山高校の魅

力づくりをあげた。今年の 2 月に栗山高等学校の魅力づくり委員会を立ち上げ、普通科のままで良いのかなど議論を進めている。今年は 33 人の入学生がいて、その中で栗山中学校からの進学は 19 人。これまでは栗山中学校の卒業生の 3 割程度が栗山高校に入学していたが、今年は 2 割程度に減少した。来年度は 2 間口を維持できたが、何もしないでいればどんどん生徒数は減少していくため、町の特色を生かした学校づくりを北海道栗山高等学校支援検討委員会で議論しながら進めていきたい。

町民：
　日赤病院の問題について、医療機関の誘致というのは可能性があるものなのか。少しでも脈があるようなところがあればすごく良いことだと思うが、栗山町に来てまで病院経営してもらえるような魅力はあるのか。

福祉総括：
　現在は日赤病院があるため、日赤病院との比較になると思うが、誘致に対して来てくれるような病院については、条件が厳しく難しい状況と思われる。
　町は日赤病院に約 1 億円を補助しており、経営改善を行って、累積赤字はあるものの単年度黒字を計上できるようになった。他の近隣自治体では 2 億円から 3 億円を補助しているところもある。道内で病院を誘致しているところに状況を聞くと、なかなかハードルが高く厳しい状況。積極的に進めるべきだという意見が多くあれば、そこにシフトしていく必要があるとは思うが、国が病床数の削減を進めていることもあり、新設認可の点でも難しいのではないか。

町長：
　可能性を見出していくことは必要だが、現実的には病院規模を縮小していきながら、2 次医療圏や 3 次医療圏ともしっかり連携し、栗山町の医療を守っていく。
　現在、日赤病院には 30 億円の累積赤字があるが、町から 1 億円の支援をして単年度では黒字になっている。町は日赤病院に入ってもらっているため医師の確保ができるという強みもある。

町民：
　今後人口が減少して高齢化が進み、税収が減少していくことを考慮すると、日赤病院を縮小して維持していくことを検討してほしい。小さくても性能の良い病院を、万が一のときには大きい病院に行く必要があっても、個人病院にはできないことをできる病院を確保してほしい。新しい医療機関を誘致するよりは、財政的な負担や安全性、長年の付き合いでの信頼感を考えても、既存の日赤病院を生かして、縮小していくほうが良いと思う。

町長：
　アンケートでも、ある程度の医療を受けられる病院の施設整備を、という意見が一番多い。日赤本部と意見交換した際には、今後の受療動向を推測し、ある程度縮小しての

病院存続を、といった町との考え方が概ね一致しているようであった。現段階で、改築費用に関しては日赤本部が出すつもりはないようだが、もし改築という方向付けになれば、費用負担について交渉していく。

町民：
　現在、日赤病院が主として診ている病気・診療内容については存続しなければならないと思う。そこを中心に随伴する領域をどの程度縮小していくのか、医師の確保や経費の削減率に関しては町民としてはわからないところ。現在の日赤病院は、高齢患者が増加し、病院なのか施設なのか、と感じるところもある。それも医療だとは思うが、日赤病院ではしっかりした医療を受けられるように、町として既存の介護施設との連携なども働きかけてほしい。

町長：
　医療だけで考えるのではなく、介護を含めた中での議論が必要。町全体の問題として、栗山赤十字病院改築等検討委員会の中でしっかり議論していきたい。

【スクールバス・町営バスに関して】
町民：
　継立中学校が栗山中学校に統合されてから、スクールバスを運行していただいている。スクールバスは町が委託して運行しているのか。車両は町で購入しているのか。

建設総括：
　車両については、統合時にマイクロバス 2 台を国からの補助で購入し、運行は町内 2 社に委託している。ハイエースはデマンドで滝下と継立から 2 本、町営バスとして運行している。ハイエースは購入時、4 駆の車種がなく、現在の車両は FR。

町民：
　ハイエースの FR では冬道での運行に支障がある。町民の安全性や運転手のことも考慮して、今後、検討してほしい。

建設総括：
　平成 26 年に 2 台のバスを購入しているが、14 人乗りと 29 人乗りのマイクロバスを購入している。平成 24 年にも 14 人乗りのバスを購入している。当時、車両を検討するときに 4 駆がなかった。今は 4 駆の車種があると思うので、今後車両を購入する場合は 4 駆を購入していきたい。

【消防体制に関して】
町民：
　角田の消防団員として奉職しているが、消防車の過積載走行が問題となっている。消

防車は1,700リットルの水を積載できるが、過積載を無くすために、1,000リットルに減らす方向となった。消防団は先発隊としての役割を担っているが、1分間に400から500リットル放水すると言われており、1,000リットルの積載では放水時1、2分で水がなくなる状態。水を積めなくすることは簡単だが、その判断は正しいのか、また、その判断を理解し、納得した上で今後この消防車で活動しなければならないのか。町民の命と財産を守るために、前の容量でもぎりぎりなところ、半分にしてしまうのはどうなのだろうか。

町長：
　過積載を解消するための方法についてはまだ内容を聞いていなかったが、今日は消防担当者がいないため、終了後確認する。今回は国の基準が変わっての対応で、本来認められていた積載ができなくなり、こういう結果になっているが、その基準自体が本来適切であるのかという問題もある。栗山町の消防の体制としてこの状態で良いのか、消防とも協議していきたい。

町民：
　現実として1,000リットルでは活動は不可能。今もし火災があって出動しても、2分で水が無くなり何もできない状況。周りの方は、消防車が来ているのに水も出さずになにをやっているのか、と思うだろう。